

中生・良質・香り米の水稲新品種「ちほのかおり」

滝田 正¹⁾・山下 浩・永吉嘉文・若杉佳司・堤省一朗・川口 満

吉岡秀樹・荒砂英人²⁾・藺田豊和³⁾・日高秀光

(宮崎県総合農業試験場¹⁾ 東北農業試験場²⁾ 東臼杵北部農業改良普及センター³⁾ 宮崎県農政水産部)

Tadashi TAKITA, Hiroshi YAMASHITA, Yoshifumi NAGATOSHI, Keiji WAKASUGI, Seiichiro Tsutsumi, Mitsuru Kawaguchi, Hideki Yoshioka, Hideto Arasuna, Toyokazu Sonoda, and Hidemitsu Hidaka
A New Rice Cultivar "Chihonokaori"

宮崎県における香り米品種は県西北部中山間地帯を中心に「日向かおり」が作付けされてきた。「日向かおり」は普及当初、地域振興を担う特産物として期待され、1993年には18ha作付けされたものの、栽培特性、収量性や玄米品質が劣り、普及面積が減少した。しかし、県西北部中山間地帯では、香り米品種に対する要望は根強いものがあり、栽培特性や収量性や品質が優れる香り米品種が強く要望されてきた。この要望に応える品種として、1999年に宮崎県総合農業試験場は栽培特性が優れる香り米の水稲新品種「ちほのかおり」を育成した。ここに本品種の育成過程ならびに特性概要を報告する。なお、本品種の育成に関し、ご協力いただいた関係機関各位に深く謝意を表す。

1. 来歴および育成経過

「ちほのかおり」は、1991年、良質の香り米品種育成を目標に極早生・香り米の「東北144号」(後の「はぎのかおり」)と中生 良質の「南海122号」を交配した組み合わせから育成した。系統育種法により、同年冬にF₁を養成し、1992年、F₂世代で個体選抜、F₃世代以降は選抜と固定を図った。1994年に「み系97」の系統名で生産力検定予備試験および特性検定試験、1996年からは「南海138号」の地方系統名で生産力検定ならびに関係県に配布し奨励品種決定試験に供試した。1999年、良質の香り米で栽培特性が優れることが認められ宮崎県で奨励品種(認定)に採用された。

2. 特性概要

「ちほのかおり」の特性概要を第1表に示す。稈長と穂長は「ひえり」より短く、「ヒノヒカリ」と同程度、穂数は「ひえり」より多く、「ヒノヒカリ」と同程度、耐倒伏性は「ひえり」より強く「ヒノヒカリ」と同程度の‘中’である。出穂期と成熟期は「ひえり」、「ヒノヒカリ」とほぼ同じで育成地では‘中生の中’に属する。いもち病抵抗性遺伝子‘Pia’を持つと推定され、葉いもちと穂いもち抵抗性は「ヒノヒカリ」より強い、‘やや強’、白葉枯病抵抗性は「ヒノヒカリ」と同程度の‘やや弱’である。収量は「ひえり」より多く「ヒノヒカリ」と同程度、玄米千粒重は21g程度と「ひえり」より軽く、「ヒノヒカリ」とほぼ同程度、玄米品質は「ひえり」より優り、「ヒノヒカリ」と同程度である。炊飯米は芳香を有し、通常の粳米に1~2%の混米で香りが認識される(第2表)。

3. 地域適応性

温暖地から暖地の平坦から中山間地域に適す。奨励品種採用県の宮崎県では、県西北部の中山間地域を中心に20haの普及が見込まれ、香り米の品質向上に貢献するものと期待されている。

4. 栽培上の注意

白葉枯病に弱いので、常発地域および常発田での栽培を避ける。

ふ先色が無く、識別しにくいので種子の取扱いに注意する。

第1表 「ちほのかおり」の特性概要

品 種 名	ちほのかおり	ひえり	ヒノヒカリ
早 晩 性	中生の中	中生の中	中生の中
草 型	偏穂数型	穂重型	偏穂重型
出穂期(月・日)	8.19	8.20	8.22
成熟期(月・日)	9.22	9.26	9.26
稈 長(cm)	80	105	82
穂 長(cm)	20.4	24.1	19.8
穂数(本/m ²)	379	274	383
芒の多少 長短	無	中 中	稀 極短
ふ 先 色	黄白	褐	黄白
脱 粒 性	難	難	難
穂 発 芽 性	やや難	やや易	難
耐 倒 伏 性	中	弱	やや弱
耐 病 性	葉いもち (抵抗性遺伝子)	やや強 (Pia)	やや強 (Pia,i)
穂いもち	やや強	やや強	やや弱
白葉枯病	やや弱	弱	やや弱
縞葉枯病	羅病性	羅病性	羅病性
玄米重(kg/a)	52.4	48.8	53.6
同上標準比率(%)	107	(100)	110
玄米千粒重(g)	21.1	26.6	22.8
玄米品質	3.7	5.4	3.7

注) 育成地における1995~'98年の標肥試験

第2表 「ちほのかおり」の混米試験

混米率	混米の 対象の 品種名	パネラー数 (人)	香りの項目を十 あるいは一とした パネラー数(人)	試験日 (年 月 日)
2	ユメヒカリ	12	11	98.12.14
1	ヒノヒカリ	12	8	98.12.18